



## お江戸舟遊び 頁版 1136 号

水彩都市江東 こころ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり  
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

### 誰ひとり取り残さない為に減災力を高めよう

日時：2025 年 11 月 29 日（土）10:00～17:00

所：足立区生涯学習センター 学びピア

主催：第 5 回荒川流域防災住民ネットワーク

共催：足立区荒川流域防災住民ネットワーク実行委員会

参加団体：あだち女性防災士会、奥野町住宅自治会災害対策部、

足立区日本防災士の会、荒川流域防災プロジェクト、ブルートラ

フィック合同会社、FM 準備会、自衛隊足立地域事務所、水辺のク

リエイターズ、大東文化大学防災研究会「STERA」、帝京大学、

日本ブルー安全管理振興協会、文教大学日本語ボランティアサークルふじゆは (Fusnpo)、労働者協同組合ワークスコープセン

ター事業団、(一社) コーチングバリュー協会、NPO あらかわ学会、NPOSDG いたばしネットワーク、NPO 夢企画、オンライ

ン防災、いたばし協働イノベーションセンター (11/8 順不同)

### 荒川流域防災住民ネットワーク



#### 1. 開会挨拶：加藤勉、塩野喜久雄、橋本正法、水越雅子、三井元子

荒川流域防災住民ネットワークは、2019 年台風 19 号の被害を契機に始まった。地球温暖化に伴う気候変動の影響により、洪水や土砂災害は、毎年のように発生している。板橋区では堤防決壊寸前まで迫った。板橋区には、荒川氾濫を想定した避難体制という地域課題があることに気づき、区内で避難訓練や学習会をやってきたが、「これは板橋区だけでなく、**荒川流域の住民共通の問題**で、**流域住民が協力**していくことが重要ではないか」という思いに至った。2021 年、荒川流域の住民や関係者が自治体の枠を超えて当事者の立場でつながり、**知恵と力を出し合**って、具体的に問題の解決を目指していく「荒川流域住民ネットワーク」を立ち上げた。みんなの参加を待っています！！

第 1・2 回：板橋区、第 3 回：北区、第 4 回：荒川区、第 5 回：足立区、次回 6 回は：葛飾区。

#### 2. 西新井小学校防災研究発表 西新井小学校防災探検隊 (5 年生)

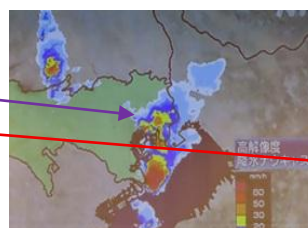
小林航「安全マップ作り」、常泉心優「郵便局の防災を学びました」

- ・荒川について：荒川は 173 km、流域面積 2940 km<sup>2</sup>、日本で 15 番目に長い川、河口から 22 km までは人工的につくられた荒川放水路。明治時代大台風時の巨大な**洪水対策で放水路**がつくられた。
- ・区には貴重な郵便局があり、その**郵便局の防災対策**を学びました。機械が壊れないように、自動停止させる。頑丈な防災倉庫がある。
- ・**足立区避難所**は小学校など約 30 か所が設けられている。
- ・**危険な場所**は、建物のそば、電柱、看板、ブロック塀の倒れやすいもの。ガス管や水道管の近く、海岸や川。一般の家では 2, 3 階が危険で、マンションは 1 階が危険。窓ガラスが危険。



#### 3. 今迫りくる『首都水没』の危機、私達はどうする 土屋信行 (リバーフロント研究所審議役)

- ・江戸時代から水害が続いてきたが、地球温暖化で亜熱帯気候化し、九州で台風が発生している！
- ・日本人は災害時に避難することは大変少なく岡山の水害でも 4.6%しか避難していない。
- ・最近、江東区では 100 mm/h の雨が降った。
- ・阪神淡路地震では淀川の堤防が破壊した！
- ・ハザードマップを熟知、対策が必要。
- ・皆でご近所力を高めよう！



#### 4. 防災運動紙芝居：(一社) コーチングバリュー協会

- i.ゲリラ豪雨・雷雨が起きたらどうしたらいい？
- ii.台風がやって来る。どうしたらいい？
- iii.大雨で洪水・川が氾濫したら、  
どうしたらいい？

- ・難問を皆で考え、デジタル紙芝居活用し、対策を考えた。

映像：[\(20+\) Facebook](#)



大雨による洪水、氾濫時に取るべき行動？

#### 5. 荒川流域住民意見発表～共助を考える～

- i.多様な視点で災害に備える 片野和恵（あだち女性防災士会）

災害は男女を問わない。男女共同参画推進視点で女性防災士を増やす。

都の防災士 27800 人。足立区の防災士は 1334 人。内、女性 274 人しかいない。増やさねば！

- ii.地域防災と多文化共生 小澤天、高橋佳廉（文教大学日本語ボランティアサークルぷしゅぽ（Pushpo））

外国人との言語の壁がコミュニティ活動の壁になっている。誰も取り残さないために言語の壁を乗り越えたい。活動に参加して繋がりを創り上げたい。

#### 6. ワークショップ：ゲスト講師：土屋信行、加藤孝明を交えた WS。

大東文化大学「STERA」がファシリテーターで自己紹介し意見交換。

第1部 防災の場から考える：加藤孝明（東大生産研究所、まちづくりから防災専門家に）

- i. OKY：お前こっちに来てやってみろ：防災は机上と現場が大きく違っている。

- ii.地域社会での取り組みの肝：自助・共助・公助の  
あるべき姿の共有+建設的な議論の場の創出  
公助への依存増大からの脱皮

- iii.防災課題を俯瞰的に眺める

予防から復興までの俯瞰した事前準備の必要性

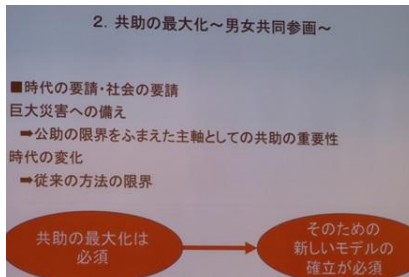
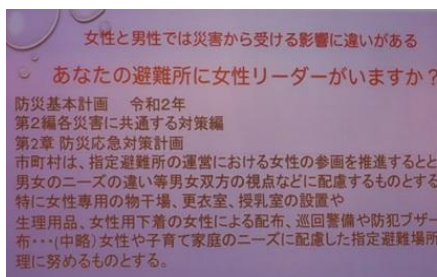
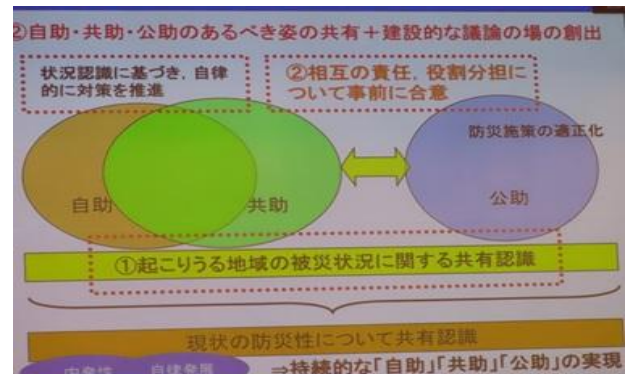
第2部

- iv.男女共同参画はなぜ必要か？

➡ 共助の力の最大化！＝男女共同参画

- v.多文化共生 ～「外人」である前にヒト～

外国人はハンディキャップがある人 ➡ まちづくり・防災の担い手



展示コーナー：荒川下流河川事務所、足立区、あだち女性防災士会、大東文化大学 STERA 等々たくさんの展示が。



閉会挨拶：1年間実行委員会を継続し、無事成功の内に閉会を迎えた。住民の力で、荒川氾濫を乗り切ろう。葛飾区「ア！安全 快適街づくり」

さん、  
来年は  
宜しく。



所感： 防災意識の高まり、官民連携・活動継続に期待。(文責 中瀬)